



カケハシ・プロジェクト（米国） アジア系米国人青少年招へい（APAICS）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などについて理解を深め、参加者同士が交流を深めてネットワークを強化することを目的に、3月12日から3月18日まで、全米各地からアジア太平洋圏議会研究所（APAICS：Asian Pacific American Institute for Congressional Studies）から推薦を受けた5名のアジア系米国人青少年を招へいしました。一行は東京都と青森県を訪問し、ホームステイを通じて日本文化に触れ、最先端技術についても学び、日本に対する理解を深めました。また参加者各々が日本の魅力や学びについて発信しました。

【参加者】米国のアジア系大学生・大学院生5名

【訪問地】東京都、青森県

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

3月6日（金曜日） 【来日前（渡航前）オリエンテーション】 事業目的・ミッション、日程説明、
渡航上の注意、感染症対策等
来日までの指定期間 【動画視聴】 日本理解講義（Web Japan より選択）

■ 招へいプログラム：

3月12日（木曜日） 成田国際空港より入国
【来日時オリエンテーション】
3月13日（金曜日） 東京都から青森県へ移動
【学校交流】 八戸学院大学
【ホストファミリー対面式】
3月14日（土曜日） 【ホームステイ】 南部町
3月15日（日曜日） 【ホストファミリー歓送会】
【文化体験】 郷土芸能体験（南部菱刺し、南部手踊り、和太鼓）
青森県から東京都へ移動
3月16日（月曜日） 【表敬訪問】 大西 洋平 外務大臣政務官
【企業訪問】 トヨタ自動車株式会社
【視察】 明治神宮・原宿（日本のポップカルチャー）
3月17日（火曜日） 【表敬訪問】 尾上 定正 内閣総理大臣補佐官
【視察】 千葉工業大学東京スカイツリータウン®キャンパス

【視察】国会議事堂

3月18日（水曜日）

【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

成田国際空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム



2026年3月13日【学校交流】八戸学院大学



2026年3月13日【ホストファミリー対面式】



2026年3月14日【ホームステイ】南部町



2026年3月15日【ホストファミリー歓送会】



2026年3月15日【文化体験】郷土芸能体験（南部菱刺し）



2026年3月15日【文化体験】郷土芸能体験（和太鼓、手踊り）



2026 年 3 月 16 日【表敬訪問】
大西 洋平 外務大臣政務官



2026 年 3 月 16 日【企業視察】
トヨタ自動車株式会社



2026 年 3 月 16 日【視察】明治神宮・原宿



2026 年 3 月 17 日【表敬訪問】
尾上 定正 内閣総理大臣補佐官



2026 年 3 月 17 日【視察】
千葉工業大学スカイツリータウン®キャンパス



2026 年 3 月 17 日【視察】国会議事堂



2026 年 3 月 18 日【報告会】



2026 年 3 月 18 日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学院生

特に印象に残ったのは、青森県南部町でのホームステイ体験でした。大変充実したプログラムで手厚いサポートが感じられました。ホームステイ先の家族と交流できただけでなく、南部町役場の親切なスタッフの方々にも温かく迎え入れていただきました。南部町役場の皆様が、私たちの滞在が円滑で、地元の文化や習慣に深く触れられるよう尽力してくださったことがよく分かりました。例えば、八戸学院大学の学長が「南部町の有名な海岸を是非訪れてほしい」と提案された際、私たちが海岸を見られるようスケジュールを調整してくださいました。また、ホームステイ終了後には町役場のセンターで多くの活動に参加しましたが、そこでも舞台芸術に携わる多くの方々に温かく迎えられました。私たちを家族の一員のように自宅に招き入れてくれたホストファミリーの温かいおもてなしにも心から感銘を受けました。南部町でのホームステイは、地域を挙げて私たちを迎えていただいた気持ちになりましたし、何一つ不自由のない体験となり大変良い印象を受けました。南部町でホームステイを体験できたことは大変光栄であり、一生の宝物になりました。

◆ 大学生

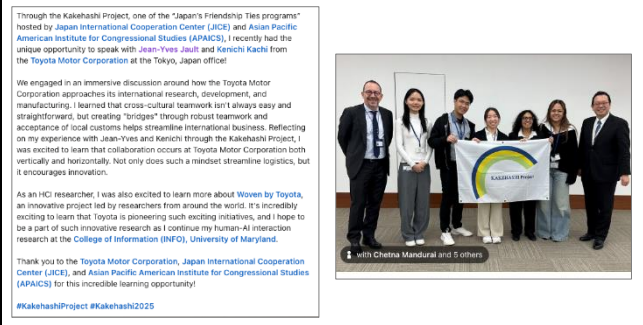
最も印象に残ったことは青森でのホームステイでした。食事やマインドフルネスを実践すること（毎晩布団を敷いたり、家の掃除をしたり）、そして蕎麦作りや着物の体験など、様々な形で現地の文化にどっぷり浸ることができて本当に楽しかったです。これらの体験以上にホストファミリーの方々と話す時間が何よりも楽しかったです。たくさんの質問をすることができ、普段なら理解できないような言語や文化の側面を深く理解することができました。ホストファミリーの方々はとても親切で、もし東京や京都などの観光地だけを訪れていたら決して知ることのなかった日本の新たな一面を見ることができました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ ホストファミリー

日本の文化を伝えたいと思ったので、一緒に習字や剣道を行いました。また、雪を見せてあげたかったので、スキー場に連れて行き、そりをしました。初めは、男の子一名ということで楽しんでもらえるかどうか心配していましたが、とても喜んでくれました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

 Through the Kakehashi Project, one of the "Japan's Friendship Ties programs" hosted by Japan International Cooperation Center (JICE) and Asian Pacific American Institute for Congressional Studies (APAICS), I recently had the unique opportunity to speak with Jean-Yves Jault and Kenichi Kachi from the Toyota Motor Corporation at the Tokyo, Japan office! We engaged in an immersive discussion around how the Toyota Motor Corporation approaches its international research, development, and manufacturing. I learned that cross-cultural teamwork isn't always easy and straightforward, but creating "bridges" through robust teamwork and acceptance of local customs helps streamline international business. Reflecting on my experience with Jean-Yves and Kenichi through the Kakehashi Project, I was excited to learn that collaboration occurs at Toyota Motor Corporation both vertically and horizontally. Not only does such a mindset streamline logistics, but it encourages innovation. As an HCI researcher, I was also excited to learn more about Woven by Toyota, an innovative project led by researchers from around the world. It's incredibly exciting to learn that Toyota is pioneering such exciting initiatives, and I hope to be a part of such innovative research as I continue my human-AI interaction research at the College of Information (INFO), University of Maryland. Thank you to the Toyota Motor Corporation, Japan International Cooperation Center (JICE), and Asian Pacific American Institute for Congressional Studies (APAICS) for this incredible learning opportunity! #KakehashiProject #Kakehashi2025	
2026 年 3 月 18 日（Instagram） 大学生 外務大臣政務官の表敬訪問は大変有意義でした。 日米関係についての意見交換を通して、現在の地	2026 年 3 月 18 日（Instagram） 大学院生 対日理解促進交流プログラムの一つである「カケハシ・プロジェクト」を通して、先日、東京のトヨ

政学的状況が明らかになっただけでなく、AAPI（アジア・太平洋諸島系米国人）の学生が国際関係の仕事にどう関わっていけるかについても理解が深まりました！大変参考になりました。	タ自動車東京本社にて、社員の方とお話する貴重な機会に恵まれました。 私たちは、トヨタ自動車が国際的な研究開発・製造にどのように取り組んでいるかについて、深く掘り下げた議論を交わしました。多国籍のチームワークは必ずしも容易ではなく、スムーズに進むとは限らないものの、強固なチームワークと現地の慣習を受け入れることで「架け橋」を築くことが、国際ビジネスを円滑に進めることに役立つことを学びました。また、トヨタ自動車では縦横両方向でのコラボレーションが行われていることを知り、大変刺激を受けました。このような考え方は、物流の効率化だけでなくイノベーションも促進します。 HCI（ヒューマン・コンピュータ・インタラクション）の研究者として、世界中の研究者が主導する革新的なプロジェクト「Woven by Toyota」について詳しく知ることができたのも大変刺激的でした。トヨタがこのようなエキサイティングな取り組みを先導していることを知り大変刺激を受けました。メリーランド大学情報学部（INFO）で「ヒューマン AI インタラクション」に関する研究を続ける中で、私もこうした革新的な研究の一翼を担えることを願っています。
	
2026 年 3 月 18 日（Instagram） 大学生 この 1 週間、東京と青森を巡る機会に恵まれました。外務省での政策に関する意見交換から、南部町のような小さな地域社会での文化体験まで、多岐にわたる経験をしました。	2026 年 3 月 18 日（Instagram） 大学生 日本の外務省の対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」の参加者として、尾上定正内閣総理大臣補佐官への表敬訪問する機会をいただき大変光栄に存じます。

特に心に残っていることは、日米関係やリーダーシップについて議論を交わしたこと、トヨタ自動車本社を訪問しイノベーションを間近で見ることができたこと、南部手踊りや刺繍といった伝統文化を直接体験したこと、ホストファミリーと生活を共にし、観光客の視点では捉えきれない人々の日常生活を深く理解できたことです。

「カケハシ」とは「架け橋」を意味しています。まさにこの体験そのものを表しています。単なる旅行ではなく、相互理解を築くこと。ただ観察するだけでなく、つながりを築くこと。単なる学びにとどまらず、その気付きを未来へとつなげていくこと。

カケハシの体験は、グローバルな視点が抽象的なものではなく個人的なものであることを改めて実感しました。AAPI（アジア・太平洋諸島系米国人）コミュニティの一員として、文化や空間、アイデンティティの間を行き来すること、そしてその視点を活かして架け橋を築くことの力強さをこの体験を通じて身を持って感じました。

この機会を与えていただいたことに感謝するとともに、学んだことを今後の学業やキャリアに活かしていくことを楽しみにしています。

今回の訪問を通じて、人的交流を通じた日米関係の重要性を改めて認識しました。アジア系米国人として、米国と同盟国との相互理解を深めたいという私の目標を実現する上でインド太平洋地域における米国の関係を理解することは極めて重要です。



2026 年 4 月 14 日（APAICS の Instagram）

APAICS「カケハシ・プロジェクト」の参加者を通して、ある一日の様子をのぞいてみましょう！

日本文化を体験することから、異文化交流を通じて心に残る人間関係を築くことまで——参加者が、この一生に一度ともいえる貴重な経験の一端を私たちに届けてくれました。

カケハシ・プロジェクトは、日本国際協力センター（JICE）との協力のもと、米国と日本の文化をつなぐ「架け橋」を築くことを目的としています。今回ご紹介するのは、その歩みのほんの一場面にすぎません。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、青森県 全1グループ発表



【成果の発表】

◆ 訪日中の学び

- ・日本の文化（人々の親しみやすさ、食、芸術、言語など）は驚くほど多様であると感じました。
- ・日本の文化は、人々の心と精神の中で生き続け、育まれているものだと思いました。
- ・ソフトパワーと人的交流の重要性を強く認識しました。
- ・AAPI（アジア・太平洋諸島系米国人）コミュニティの一員であることは強みであり、私たちの視点や価値観はユニークであり、大きな影響力を持っていると実感しました。
- ・特に異文化の場では聞くことは話すことと同じくらい重要であると感じました。

◆ 個人的展望

- ・国際的な場で職務経験を積むことに対して前向きに考えていきます。
- ・集団主義の価値を理解し、それを実践していきます。
- ・バイリンガルな職場環境を視野に入れていきます。
- ・外交分野における「人と人との交流」を大切にしていきます。
- ・文化的感受性と適応力をさらに高めていきたいです。

【アクション・プラン】

- ・SNSでカケハシ・プロジェクトを発信します。
- ・大学内で「カケハシ・プロジェクト」に関する説明会を開催します。
- ・関心のある学生を対象に、1対1または少人数での面談を行います。
- ・学内の団体と連携し、「カケハシ・プロジェクト」を広めていきます。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）